

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	りんく むろらん		
○保護者評価実施期間	平成37年2月10日		平成37年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2025/2/14		2025/2/28
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	4 (一名育休中)
○事業者向け自己評価表作成日	平成37年3月11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	季節に沿った創作活動や野外活動取り入れており、特に土曜日のイベントには定員以上の参加希望者がいる。(調理レクや見学会、身体を使った体験会等)	職員がすべて活動を決めるのではなく、お子様の意見や希望を取り入れられるよう話し合いの機会を設けている。その中でも活動内容の偏り、一人一人の特性の配慮も十分行いながら活動を設定しています。	家庭ではなかなか実施が難しいこと、また仲間と時間や空間を共有し「楽しい」「うれしい」「できた」等の達成感や満足感を味わう機会をもっと設けるため地域の企業様や団体様、個人の方へ協力をお願いし、活動の幅をもっと広げていけたらと考えています。
2	個別活動の自己選択制の導入をしています。一日15分~20分ほど一人一人が集中し取り組めることを目標に行っています。中には学校の宿題をこの時間にする児童もおります。	児童の学習能力や手先の巧緻性、机に座り集中できる時間を増やすにはどうしたらよいか等一人一人の特性に合わせた課題提示を一種類ではなく選択制が持てるように工夫しています。	現在学習科目(国数社英)やなぞり書き、点つなぎやシール貼り等のプリント学習をはじめモンテッソーリ教材を使用し個別活動を進めています。児童が飽きず新たな発見や興味がわく課題をもっと沢山増やせるよう外部研修や調べ形にし提示できたらと思います。
3	児童、保護者に寄り添った支援	当事業所では専門的な知識や能力はもちろん必要ですが「繋がり」「寄り添い」を一番に職員全体大切にするよう徹底しています。特に新人教育時には時間を設け職員一人一人に管理者より伝えています。	「繋がり」「寄り添い」に対し専門的知識や能力ものちに必要となってきます。職員間での知識能力にばらつきもあるのも確かであり、今後も内部だけではなく外部の研修にも積極的に参加し職員全体の質を上げていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内の狭さ(基準に満たしているが手狭だと感じている)	活動や年齢別に現在部屋を分けて支援し事業所内の部屋数や面積が放課後等デイサービスにおいての基準を満たしてはいるが、児童がのびのびと過ごせたり、個別での対応、また活動の幅が広がりにくく課題となっている。	仕切り等で一部屋を工夫して使用する等の取り組みを行うとともに、すぐには難しいが移転の検討も行っていく。
2	職員の人数(基準満たしているが児童により良い支援を目指したい)	現在常勤勤務の職員のみで短時間業務に努める職員がいない。個別支援を行う際にもう少し職員数がいたら今よりも濃い支援が行えるのではと考えている。また送迎についても現在保護者の方々に工夫していただいている状況でありご負担をかけている。	現在職員増員に向け事業所として動いている。また近日に現在育児休暇中の職員が復帰予定の為より良い環境が準備できると考えている。また増員するにあたり職員の質や連携を強化する必要がある為、新人教育をはじめ研修や勉強会等を随時行っていく。
3	開設してからの期間がまだ浅い	開設して2年が経過しましたが、まだまだ不十分な部分もあご迷惑をおかけすることが多々ありました。放課後や休暇中をお子様方が楽しく安全安心に過ごすことができる居場所作りを現在進行形で行っていますがまだまだ課題が沢山ある状況です。	職員の質の向上や環境を整えることはもちろんの事、これからは保護者様はじめ各関係機関との密な情報共有、そしてご利用なさっているご家庭、お子様のご希望や要望にお応えできるよう努めてまいりたいと思っています。また職員も楽しみ安心して業務につくことができるよう事業所として職員が最大限のパフォーマンスを発揮するための職場環境の改善を随時行います。